



つばめ通信

特別号
 令和5年9月1日
 特定非営利活動法人
 NPO成年後見湘南
 平塚市代官町16-37
 平塚チェリーマンション102号
 発行責任者：成瀬富子

小さな一歩、共に歩んだ20年、みらいにつなぐ

はしがき

この度、NPO 成年後見湘南は法人設立から20周年を迎えることができました。これもひとえに皆さま方のご支援・ご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

20年間のあゆみを振り返って、事務局・後見担当者達が活動の動機、今までの活動の様子、活動で感じた喜び、困難さ、今後の展望等、メンバーの思い・願いが、字数制限のある中で表現されています。

NPO 法人の詳しいあゆみ・成果は、「つばめ通信20号」を、今年度の活動状況は「つばめ通信21号」をご覧ください。HPでも閲覧できます。



NPO成年後見湘南 設立10周年記念パーティー（平成25年5月28日 於グランドホテル神奈中平塚）

10周年を祝う 法人を支えたメンバーたち



NPO成年後見湘南 設立15周年記念パーティー（平成30年5月28日 於：グランドホテル神奈中平塚）

15周年を祝う 法人を支えたメンバーたち



知的障害者の「親子後見」を見守る機関が欲しい。障害者の家族が中心となり、NPO法人「成年後見湘南」が設立された。「成年後見」とは、知的・精神障害のある人、痴呆症の人など、判断能力が十分でないために後見人の「保佐人」という法律上の代理人を立てる制度。家族や弁護士が後見人となるケースが多いが、NPO「成年後見湘南」では、当事者の家族が中心となって運営する法人で、複数人の後見を担う。

「知的障害者を子に持つ親として、親子後の行く末を、思い悩まない人は一人もいません」と同会の副代表・成瀬富子さん。

「成年後見湘南」設立の中心となったのは、進和学園の保護者会「進和会」とメンバー。今年4月の福祉

知的障害者の「親子後見」

制度改正にあたって開催していた勉強会も、自分たちが亡くなった後、子どもを誰に世話してもらいたいのかと話し合った。「姉弟には負担を掛けたく

進和学園の保護者「自分たちでやろう」と結成

護士や司法書士による代行は、最低でも月3万円の費用がかかる。障害に関する理解に不安があるという難点が残っている。ならば、自分たちでやろう、と会を結成した。利用者が費用を徴収し、スタッフに財産管理や施設との交渉などを行う予定だ。

「後見」問題の背景にあるのは、福祉政策の転換だ。今までの福祉は、行政が主導権を握り、半ば強制的にサービスが提供される「措置制度」だった。しかし今年4月から支援費制度がスタートし、利用者はサービス提供事業者を自ら選んで契約する契約制度になった。意思を明確に伝えることができなくなった。知的障害者の場合、親身になって契約を代行する後見人が欠かせない。「親子後見」が、切実な問題だ。NPO法人で担うべき「不滅」の保護者の存在が必要」と同会では訴える。

「成年後見湘南」の設立メンバーたち

「成年後見湘南」の設立メンバーたち

ない」と理事のひとり。障害者の身内としてハンディを背負っている現実を考えると、親として負い目がある、と心情を語る。

親戚関係に頼んだ場合、財産権が絡んでトラブルになっているケースもあるという。

社会福祉協議会など、地域内の公的機関に頼めれば、と考えたが、現状では無理。弁

湘南新聞 平成15年10月4日よりNPO成年後見湘南設立の紹介記事

設立当初の紹介記事 当時の湘南新聞より

20年が経ちました

たくさんの思い出が走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。

20年前親亡き後を安心して託せる後見人を求めて熟慮の結果無謀にも素人の親たちがNPO 成年後見湘南を立ち上げました。

メンバーに恵まれ、良き指導者に会え、たくさんの方々からご支援をいただきここまでやってこられました。設立時のメンバーの中には引退された方、亡くなられた方もいらっしゃいますが、新しく加わって下さったたくさんのメンバーたちがこれからも法人を支え、法人の理念を引き継いで下さることでしょう。変わらぬご支援をお願い申し上げます。

成瀬 富子

20周年を振り返っての想い

10周年の際の私達二人の文章を読み返しました。親亡き後の我が子を案じる熱意が生み出したNPO 成年後見湘南（以後NPOと省略）は当時めずらしい存在でした。法人の殆どは司法書士、社会福祉士等の専門家集団だったからです。

やがてNPOは、知的障がい者に特化した法人として認知され信頼される存在になるべく、組織の充実に力を注ぎ始めました。東大の後見人養成講座終了者や企業、福祉、教育関係など様々な分野の経験者の加入により、後見活動能力は向上し柔軟さを増しました。

事務局はこれまで積み重ねた経験の体系化、マニュアル化に着手、後見業務の進め方、用意すべき書類、問題が生じた場合の対処、報告書の作成の仕方等が文書化されて規定となり、活動の基盤が固まりました。金銭の管理システムの整備には細心の注意が払われました。これらの努力が家裁や施設など関係機関の信頼を得ることに繋がったのです。

後見業務担当者も力をつけてきました。施設に働きかけて親御さんのお見舞いや墓参に行く機会を作り、ご本人さんと一緒に向くなど積極的な活動が多くなりました。施設で会う時とは違うご本人さんの姿に感動し、その感動が報告され、後見業務担当者で共有されることも増えました。意思表示が苦手な知的障がい者であっても、丁寧な関りを積み重ねていけば、その方の思いに少しずつ寄り添えるようになるという学びの機会に接することで、後見業務担当者は意欲を持ち続けられたのです。

NPOは知的障がい者施設入所している後見レベルの方に限定していた活動範囲を、在宅の方、保佐レベルの方にまで広げました。設立当初を知る私達二人は、NPOの成長ぶりに感慨無量です。

しかしNPOは今後も更に活動を充実させなくてはなりません。成年後見制度への国の方針が変化し、財産管

理中心だった従来の後見業務に「本人の意思の尊重」という身上保護重視の動きが出てきたのです。ご本人さんの思いに寄り添うことで生活の質を高め、権利を守っていくというNPOの活動方針と重なります。NPOの真価を発揮しうる状況になりつつありますが、真価を問われる状況でもあるのです。

在宅の方、保佐レベルの方へと活動範囲を広げた結果、地域との密接な連携が必要となりました。ご本人さんの高齢化で入退院の繰り返しや介護施設への入所が増え、亡くなる方も出てきました。複雑で多様な、時には迅速な対応が必要とされるなかで、NPOの活動方針を保つのは大変です。

後見業務担当者の負担が増大しますが、担当者の高齢化も進んでいます。後継者をいかに確保し、活動をいかに引き継ぐかという大きな課題もあります。

全員で力と知恵を出し合い一歩一歩着実に課題を乗り越えていかれるよう、心から願っております。

渡邊 浩子・東方 郁子

20年そしてこれから

平成15年に設立されたNPO 成年後見湘南は、会員の方々や応援して下さった皆様に支えられ、20周年を迎えることができました。

ここ2~3年はコロナ禍で思うような活動も出来ませんでした。先日やっとなご本人に面会が30分許されました。この30分の間、ずっと元気な姿で話をされていて安心しました。又、20年の歳月ではご本人のご葬儀ということも起こり、参列させて頂きましたが、友達も沢山来て下さりとても温かいご葬儀でした。

これからもいろいろなことが有るとおもいますが、

ご本人の未来を守るために若い世代の方々よろしくお願い致します。(自身の年齢では先に逝くと思うので)

小林 美栄子

活動に参加したころ

昔の手帳と議事録を引っ張り出して、私が初めて月例連絡会(今の定例会議)と事務局会議に参加した時の議事録を見返してみました。

この頃の議事録は、全て初代代表が作成されていましたが、月例連絡会は平成18年3月が初めてで、この時の議題は、第3回総会資料の検討、申立書類・財産目録・後見事務計画書の実務研修になっていました。事務局会議は平成18年12月が初めてで、この月の月例連絡会に提案する議題の詰めと来月以降の勉強会プランを検討していました。

法人設立から満3年の時期になりますが、当時の検討議題を眺めると懐かしさと初々しさとともに愛おしさを感じてしまいます。現在の深化した活動状況に20年の重みを覚えます。

古野 貞昭

眠れぬ夜のうたた寝

NPO 成年後見湘南創立 20 周年おめでとうございます。

創立に走り回った方々、良くぞ素晴らしい NPO を立ち上げられました。

私は 12 年間、この NPO に一緒にいられ ”皆さん有難う” との感謝の気持ちで一杯です。

6 年前に脊椎の手術をし、後遺症で動けず、今は座っているだけの 1 日、そんな夜中、

眠れぬ夜の夢・・・悔し涙を流しながら、懐かしき思い出を夢みしています。

NPO に加入した頃、NPO は”元気一杯”スタートダッシュしながら、楽しいことだらけで充実していた。頭には、相棒と一緒に、被後見人の方とそして彼を取巻く人達が渦巻き、そして皆の笑顔が飛び交い、そんな情景が浮かぶ。また、 ”根岸への墓参り” ”山車と神輿で賑わった夏祭りの見学” 一方 ”踏切の側で車椅子から湘南電車を何台も、何台も見送ったあの嬉しそうな笑顔”。多くの残像が眠れぬ夜に浮かんでは消える。

一方、少し仕事に慣れた頃、事務局に入り、会計の業務を担当した。事務所↔施設↔面会↔事務所↔銀行↔事務所と駆け巡っていたあの頃。本当に充実していた。

「こんなことが又来ないか」と夢を見ながら、夜が過ぎ朝がくる。

瀬川 義雄

わたしの後見活動

成年後見湘南にお世話になって、設立 10 周年・15 周年そして今回の 20 周年と大きな節目を経験することになりました。2011 年に東京大学での市民後見人養成講座で基礎を学び、2012 年より NPO 成年後見湘南のメンバーに加えて戴いた当時のわくわく感を懐かしく思います。福祉への熱い思いを実行に移された設立メンバーのリーダーシップとその後加わった専門性豊かな後見事務担当者のご努力と相まって、被後見人本位の良い組織だと思いますし、誇れる NPO に長く所属でき感謝しております。

私は会計担当・監事として内部管理に携わりながら、後見担当としても 3 人の男性に係ることが出来ました。お一人お一人個性の違いや、コロナ禍での面会規制等々悩みも多かったです。ご本人が健康で楽しい生活を送るお手伝いが出来ているのか確信の持てない未だ初心者ですが、関係者のひとりとして今後も努力していければと思います。

村山 富樹

後見担当者としての願い

成年後見制度と云う言葉を初めて知ったのは、20 年近く前でしょうか。最初は進和学園を利用している保護者の方々の勉強会に参加させていただいたのがきっかけでした。

進和学園の会議室をお借りして自分たちの子ども兄弟（障がいあり）たちが、親、兄弟が亡くなった後、普通に暮らしていけるだろうか。

私はもっと詳しく知りたい、もっと制度の事を学びたい、という気持ちで現在に至ります。学ぶ場所も進和学園の会議室が手狭になり平塚市民活動センターに移り、その後現在の事務所に移転し、多くの後見スタッフの方々と後見担当者として、日々勉強させていただいています。

事例として、一人の方の後見担当者としてお知らせしたいと思います。

今から 18 年程前、親一人子一人の方からの依頼でした。お母様は、子供の行く先を心配され後見をお願いされました。最初はお母様もお元気でしたので身上監護のみで、財産管理はお母様が行いましたが、お母様の高齢もあり、現在は単独後見をしています。最近ではお母様も 90 代となり、お母様にも後見人がつきました。でも、施設に入所ではなくご自宅で頑張って生活されています。

私の娘も 40 代（知的障害）ですが、この事例は私の 10 年後を見ているようです。私も後見担当者として一日でも長く、ご本人に寄り添っていきたいと思います。

須藤 房子

20 周年を迎えて

NPO 成年後見湘南が設立されて 20 年経ちました。私は 2011 年から参加しています。

東大の後見人養成講座の中の実習をこの NPO でさせて頂いたのがきっかけです。

参加した当初は何もわからず先輩方に教わりながら実際の後見担当業務に携わらせて頂きました。以来 8 名の方の後見を担当し、現在は 4 名の方の担当をさせて頂いています。

御本人ごとに個別の事情があります。御本人をよく知ること、また NPO のチームの協力が必要だということを実感しています。

現在の後見制度には問題点も多くあり、今後の改善が検討されています。

今後誰もが使いやすい後見制度に早くなるよう期待しています。

菊地 洋一



市民成年後見人を目指した思い

これからますます少子化の進展に伴い、好む好まざるにも子どもには頼れない、また身内にも頼れない時代になってきています。成年後見人制度が改正され、平成12年4月にスタートしましたが、司法書士、弁護士に頼むと多額のお金がかかるのが現実のようです。私も市民後見人養成講座のプログラムを学んだことで現実をみてのずれを考えさせられることが多くありました。

だからこそ今、市民後見人制度というものを多くの方に知ってもらいたいと思い、お手伝いできることを望みました。後見人自体も事務的なことだけではなく人柄も重んじられると思います。後見人次第で幸せな人生を送れるかにもかかわるのではないのでしょうか。

これから出会うであろうその方々の良き市民後見人を目指していきたいとの強い思いがありました。幸い現在所属しているNPO 成年後見湘南との良き出会いがありその中で現実と向き合い諸先輩方々のアドバイスをいただきながら、出会い、悲しい別れもある現実を受け入れながら大変責任のある大切なお仕事ですが、私自身携われることが出来まして嬉しい限りです。

今後、もっともっと市民後見人を目指していかれる方が多くなれば幸いに思います。

小野 正子

活動を振り返って

当法人の勉強会に誘われたことがきっかけで、成年後見担当を引き受けることになりました。知識もなく不安なスタートでしたが、後見担当は資格がなくてもできる。経験しておいて無駄になることはないとの話を聞き、後押しをされたような気持ちになったことを覚えています。

被後見人のMさんとの出会いでは、語りかける言葉にもあまり反応を示さず対応に困惑したこともありましたが、面会を重ねるごとにご本人の心の優しさを知ることができ、親しみを強く感じるようになりました。

12年間の長い付き合いのなかで、解決すべき問題で判断に迷う事柄については定例会に提案し、スタッフの皆さんのご意見を参考にさせて頂き対処しています。

ご本人の性質上明確に意思を確認することは難しく、改善できる事柄も限られるように思われます。本人の利益を優先し、日々安心して暮らして行けるようにこれからも見守って行きます。

松嶋 勝利

N子さんとの出会い

N子さんの後見担当になって間もなく、施設の夏祭りに参加をしました。

当日、N子さんは浴衣姿で参加です。焼きそば・焼き鳥・ジュース等の出店が沢山。「焼きそばを食べようか？」とお話しして出店に一緒に向かった時、N子さんが私の手をギュウと握ってきました。お店の前で待っている時も、強く握って放しません。ふと気づきました。そうか寂しいんだよね。知り合ってもない私でも一緒にいてほしいのですね。周りを見れば、皆さんお父さん・お母さん達と一緒に本当に楽しそうに笑顔いっぱいです。N子さんが後見人に望んでいることは、きっと心のふれあいなんだ。それから3時間、沢山お話をして、沢山食べて飲んで過ごしました。お話は、半分くらいしか分からなかったが、少し仲良くなれた気がしました。次回までには、お話をもっと理解できるように頑張りますね！ 後見人として、まだまだ不慣れな時でしたが、有意義な一日でした。

曽根 康

法人設立20周年に寄せて

法人設立20周年おめでとうございます。我が息子が中1の時にこの法人に参加させて頂きました。知的障害がある息子の親亡き後の人生は、、と、当時は大きな不安を抱えておりました。机上の学びでは成年後見制度は複雑なこと、としか捉えられなかったのですが、この法人の代表理事である成瀬さんの横須賀での研修会に参加させて頂き、法人の方々の”思い”に賛同し“私が探していたものだ！！”と感じ、平塚へ伺わせて頂くことが始まりました。その息子も今年27歳になります。

法人が長きに渡り1つひとつ積み上げてきたものが盤石な土台となってきているように感じます。関わってくださる人にも恵まれ、相互の協力、協働を心がけて下さって積み重ねられている日々を過せていることに感謝です。

願わくは、この法人の活動にご興味、ご賛同を寄せて頂けるようでしたら、是非ご参加いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

中村 さと美

共に過ごして

担当させて頂いている被後見人様と面会をさせていただいて、いつも優しい気持ちをいただいております。

帰省されてご両親様に目玉焼きを作ってあげたと得意げに話してくれる顔、自信をもって作業に取り組んでいる姿、お姉さんから年賀状が届いてうれしいと満面の笑顔で話してくれる様子、けがをした後に杖を突きながらも懸命に歩いている様子、少し具合が悪くて検査の結果を心配していて結果が良かった時、言葉にならなくても私に伝えたいと話してくれようとする姿等々、共に過ごす機会をもらい感謝の一言です。

杉山 須美子

思い と 想い

「思い」は物事を考えること全般、「想い」は特に心の中に思い浮かべること。NPO 成年後見湘南で活動を始めてから、「思う」ことは生きる上で当然のこととして、「想う」事柄がどんどん増えてきています。

自分の子どもたちの子育てで頭も心も余裕がなかった日々のことを思えば、今こうしてたくさんの方を「想う」ことができるのはみなさんとともに充実した活動を続けられているからだと感じています。担当させて頂いている T さんと笑顔でお会いできるよう、できるだけ元気に長く活動を続けたいと思っています。

荏原 雅美

成年後見湘南に出会って

定年後はボランティアをしたいと思い、出会ったのが成年後見湘南でした。

当初、現場は甘くないことを思い知る日々でした。それから6年が過ぎ、何とか続けられたのは諸先輩に支えて頂いたことが一番ですが、施設の職員の方の献身的な努力に感銘を受け、自分も万分の一でも後見を担当する K さん・S さんの支えになれたらと思うからです。そして時折見せてくれる K さんらの満面の笑みが何よりの報酬です。

山崎 章生

後見人の過去を振り返って

私が NPO 成年後見湘南に関わりをもってから約7年になると思います。現在2人を担当しています。奇数月は

「はばたき」入所者、偶数月は「やましろホーム」入所者を担当しています。やましろホームの方が6年、はばたきの方が5年になります。両方の方共、50代後半の男性です。

毎回、施設を訪問し、受け持ちの被後見人の担当職員から、過去2月の状況を聞き、参考になるアドバイスがあれば、提言し、最後に被後見人本人に面会し、外見動作、会話をして帰り、後見報告書に記述と言うスタイルで続けてきました。

自身でも感じてきていますが、だいぶマンネリ化しているのではないかと思います。

周りが変に欲張って新しいことをさせようとしても、本人には苦痛でしかないことがあります。毎日、通常の生活を送るのが本人にとって心地よい生活ではないでしょうか。これが、後見人としての私の結論です。

小倉 淳一

「まだまだ歩き出したばかり」

これまで障害福祉に関連するいろいろな団体のお手伝いをさせて頂いてきましたが、本業のほうで定年・再雇用になり先が見えてきますとあちらこちらと少しずつ引退の道筋をつけないとならないなあと思うようになりました。

とは言ってもNPO成年後見湘南ではまだ若手の駆け出しで(たぶん)働き盛りと目されていることに応えられるように、丁寧に活動を続けて次の10周年を迎えることが目標です。

菅野 正裕

活動を始めて

障がいのある子どもを抱えてどうしたらよいのか分からず、困り果てていた私たち家族は親の会活動への参加を通して少しずつ落ち着きを取り戻して数々の辛い経験を乗り越えることができました。お陰様でわが子も立派な大人になり、胸を張って人生を楽しんでいます。

その親の会で活躍された皆さんが当法人を設立したことを知り、ずっと気になっていましたが、定年退職後再雇用を経た2020年に仲間入りしました。

コロナ禍での初めての受任、面会もままならない中での後見事務、そして2年後の見送り…あつという間に濃密な経験をさせていただきました。そして今年は新たな受任…使命感を持って皆さんと活動に取り組むこと、仲間を増やすことを目標に21年目を迎えたいと思います。

前橋 克次

監事に就任しながら思う事

この度は、NPO法人成年後見湘南の創立20周年との事、おめでとうございます。これからも大切なお役目を果たして行けます様にと願っています。

私は、令和2年度から監事を仰せつかり、お役目を果たしてきました。果たすというより、果たさせていただいたという方が正しいでしょう。素人の私を支えて下さった村山様、本当にお手伝いしか出来ませんでした。ここまでお役目を果たさせていただき、ありがたく思います。

化学会社の研究所で定年まで勤務し、その直後、ホームヘルパー2級の講習を受けて資格をいただくと同時に、進和学園万田ホームの非常勤として勤めてきました。その期間が、なんと16年。その後に関わったのが、当、NPO法人成年後見湘南の監事でした。

監査のたびに、非常勤以前の35年ほど昔、万田ホーム成人寮で音楽ボランティアとして関わったことのある園生のお名前が、目の前の書類入れに確認出来、「ああ、この方も後見の対象になって来たのか。月日が経ったなあ」と感慨に浸りながらチェック作業を行っていました。

皆様からのご指導を頂き、お役目を果たして来られたこと、改めて感謝です。有難うございました。

中村 寛志

初めての活動

12月のよく晴れた、北風が強く吹く日でした。JR線の某駅で代表理事と待ち合わせをしてバスに乗りして現地に向かいました。それは、施設入所のAさんの現親族後見人さんとの事務引継ぎでした。

銀行の通帳やキャッシュカードなど大切な書類を預かりました。穏やかな優しいような老夫婦の後の法人後見の担当者として活動できるのか。不安に思いました。

すぐに、家裁への財産目録、後見事務報告書、銀行への後見届、本人との面会で計画相談等々、いろんな作業があることを教えていただき、テキストで学習したことがこう実現していくのか、とても勉強になったと記憶しています。一番の不安は「何かあったら家裁から携帯に電話はあるからね」と代表理事に言われたことです。

後見担当としてスタートしてからも、いろいろな不明・疑問なこと不安なことなど、設立当初よりのメンバーの方々から教えていただき今日まで、活動できました。

これからも法人のよさを生かしながら、ご本人さまに寄り添った活動ができるように取り組んでいく所存です。

清宮 勝男

◆編集後記

この「つばめ通信特別号」には、私たちの20年間の歩みや取り組みが詰まっています。

また、つばめ通信特別号をお読みになり後見活動に興味・関心が湧いた方、一緒に行動しましょう。大歓迎です。

20年間の知識と経験をもとに今後も、利用者さまの人生に寄り添い、法人後見の良さを生かしながら、より一層の発展を目指して後見活動に取り組んでまいります。

設立30年に向けて益々発展していくことを会員の皆様と願っています。今後ともご支援をお願いいたします。(K.K)

ホームページ

<https://www.koken-shonan.com>



QRコードを
写し取ると
簡単に画面
を開けます



20周年を迎えて静かに佇む
現在のNPO成年後見湘南の事務所

